

「特別活動」(学級活動) 学習指導案

日 時：平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇)〇校時

指導者：教諭・〇〇 〇〇(〇〇市立〇〇中学校)

場 所：〇年〇組教室(男子〇〇名、女子〇〇名)

1 題材名 「熊子の憂鬱(パワーポイント教材)」(自己表現とコミュニケーション能力)  
内容(2) 適応と成長及び健康安全 オ 望ましい人間関係の確立

2 生徒の実態と題材について

平成24年度11月の内閣府の調査によると、中学生の携帯電話の所持率は51.6%で、そのうちスマートフォンの所持率は25.3%である。平成23年6月の調査と比較すると、携帯電話の所持率はほとんど変わらないが、そのうちのスマートフォンの所持率はわずか1年半で5.4%から25.3%へと約5倍にも伸びている。この数値は中学校としても、もはや見過ごすことができない数値である。

生徒の携帯電話、特にスマートフォンの使用の実態は、自分で使用する時間をコントロールしたり、インターネット機能の特性を理解して自分の個人情報が出ないよう注意し、他人に迷惑をかけるような情報を流通させない、といった情報モラルが身につけていない生徒が多く、保護者も家庭内のルール作りやフィルターの設定の大切さに対する意識が薄く、「便利だ」と言うだけでその危険性を知らずに使用している実態がある。

本時の題材である「熊子の憂鬱」はLINEによるネットいじめを取り上げたものであるが、このことは、最近のニュースでも注目され、問題視されている話題である。情報モラルの指導だけではなく、いじめが発生する根幹にある自己表現力とコミュニケーション能力を育てていくことが急務であると考えられる。

3 評価規準

望ましい人間関係の確立への 関心・意欲・態度	望ましい人間関係の確立への 思考・判断・実践	望ましい人間関係の確立への 知識・理解
・望ましく、円滑な人間関係の確立に関心を持ち、自己表現力やコミュニケーション能力を高めようとしている。	・学級や学校内、家庭、地域などの人間関係について振り返り、その集団の中での行動や生き方について考え、判断し、望ましい人間関係を確立しようと実践している。	・人間関係を形成する力や他者への思いやりや正義感、連帯感や協力心などについて理解している。 ・情報モラルや自己表現力、コミュニケーション能力などについて理解している。

4 本時の目標

- ・スマートフォンのアプリ「LINE」の使用によって生じた「ネットいじめ」の事例を通して、インターネットを用いたコミュニケーションの限界や対面によるコミュニケーションの重要性を知り、望ましい人間関係作りに生かそうとしている。

5 本時の展開

	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等
導入	○アイスブレイクのために、情報の拡散を体感する活動を行い、個人情報や他人に迷惑をかける情報の拡散が、いかに重大なことを理解する。  ※アイスブレイク…参加者間の緊張をときほぐす手法。	○全員起立する。紙を渡された生徒は、その紙を半分に切って、その紙を他の人に渡した後、着席する。紙を受け取った生徒は、さらにその紙を半分に切り、まだ起立している他の人に渡して、着席する。紙を渡す人がいなくなるまで行う。	○活動が終わった後、この活動がインターネット上の情報の拡散を体感するためのものだったことを説明し、①インターネット上の情報が大変な早さで拡散すること、②情報が個人情報や他人に迷惑をかける情報であった場合重大な事態になることを、生徒に気づかせる。	

展  
開

**【パワーポイント教材】「熊子の憂鬱」**  
 クラス替えて仲のいい友達と離れてしまった熊子は、学級で孤立していた。そんなとき、同じ学級のウサ子が熊子に「LINE」仲間にならないかと、声をかけてきた。熊子はウサ子と「LINE」でやりとりするようになる。ところが、ウサ子が「LINE」上にチェリ子の悪口を書き、熊子に同意を求めてきた。チェリ子の悪口を書きたくない熊子は、ウサ子の書き込みに対して反応しなかった。これに腹を立てたウサ子は、「LINE」仲間の中で熊子の悪口を書き始め、熊子が「ネットいじめ」のターゲットになってしまう。そして熊子は、「LINE残し」にあう。思い悩んだ熊子は引きこもるようになり、学校に戻れなくなってしまった。

- パワーポイント教材「熊子の憂鬱」を見る。
- パワーポイント教材「熊子の憂鬱」を見る。
- ナレーションと画面の「LINE」上のやりとりを読みながら、パワーポイントのスライドを映写していく。

- (1) 熊子の行動で気になったことを、思いつくぶん書き出してみましょう。
- (2) 書き出したことを、同じ班の人たちに紹介しましょう。

- 「熊子の憂鬱」を見て考えたことを、ワークシートに記入し、同じ班の班員に自分の考えを紹介する。
- 「熊子の憂鬱」を見て考えたことを、ワークシートに記入し、同じ班の班員に自分の考えを紹介する。
- 班の中での紹介が終わったら、「友達がいなかったのだから「LINE」仲間に加わったこと」など、様々な考えが出たことを確認した上で、今後の学習では、熊子が「ウサ子に、チェリ子の悪口を言うのはよくないことだ、と伝えられなかったこと」に着目していくことを説明する。

- (3) 熊子がウサ子に、チェリ子の悪口を言うのはよくない、ということをLINEで提案した場合の文章を、20字以内で書いてみましょう。
- (4) 班の中で2人ずつペアになり、1人がウサ子になって「チェリ子、調子こいてると思わない？」と言ったら、もう1人はワークシートに書いた20字以内の文章を話してみましょう。その後役割を変えて、同じように会話してみましょう。

- 熊子がウサ子に、チェリ子の悪口を言うのはよくないことを、「LINE」で伝えることを想定して文章を考え、実際にペア同士で会話してみる。
- 「LINE」で伝えることを想定して、ワークシートに20字以内で、「熊子がチェリ子に、悪口を言うのはよくないので、やめるように提案する」文章を記入する。  
○班の中で2人ずつペアになり、1人がウサ子になって「チェリ子、調子こいてると思わない？」と言ったら、もう1人はワークシートに書いた20字以内の文章を話す。その後役割を変えて、同じように会話する。
- 「LINE」の特徴である、スタンプという絵を用いて伝える、ということを考えた生徒は、そのスタンプの絵をワークシートに書くよう、補足する  
○ペアでの会話が終わったら、何人かの生徒に、どのような文章を書いたか、発表させる。  
○生徒が発表した文章のほか、「チェリ子がかわいそうじゃないの!」「みんなLINE仲間だから悪口やめなよ!」といった、代表的な文章を紹介する。

- インターネットによるコミュニケーションの限界について理解する。
- 説明を聞いて、インターネットによるコミュニケーションの限界について理解する。
- 20字以内という字数の文章や、スタンプという絵を用いて、相手のことを思いながら自分の考えを伝える文章を書くのはとても難しいということに気づかせる。  
○「LINE」の書き込みは、その場その場の思いを頭の中で考えることなくつぶやいたり、自分の感情を相手に察してもらおうようなスタンプで表現するなど、相手のことを思いながら文章にしていけない、ということを説明する。  
○熊子がウサ子に自分の考えを伝えようとしても「LINE」に代表されるインターネットによるコミュニケーションでは難しいという、インターネッ

展			トを用いたコミュニケーションの限界について、まとめる。
開	<p>(5) 「のび太のくせに生意気だぞ！お前は、俺様の言うことが聞けないのか！」(ユウ [You] メッセージ) と「のび太さん、しっかりして！私は、のび太さんに、これから言うことを聞いてほしいの。」(アイ [I] メッセージ) の、どちらの言い方がよいですか？</p>		
	<p>○インターネットではない、対面によるコミュニケーションの大切さと、アイメッセージを用いたコミュニケーションの重要性を理解する。</p>	<p>○インターネットではない、対面によるコミュニケーションの大切さを理解する。 ○ユウ [You] メッセージとアイ [I] メッセージのどちらが、受ける印象がよいかを考える。 ○アイメッセージが、相手の受ける印象がよいことに気づく。</p>	<p>○インターネットを用いたコミュニケーションに限界があるのであれば、対面でのコミュニケーションの力を向上させる必要があることを伝える。 ○ドラえもんが登場人物であるジャイアンが、のび太に向かって言うせりふ(ユウ [You] メッセージ) と、しずかちゃんがのび太に向かって言うせりふ(アイ [I] メッセージ) を紹介し、感じ方の違いを生徒に確認する。 ○しずかちゃんのせりふである、私を主語にして私が感じていることを伝えつつ、相手を気づかう言い方のアイメッセージが、相手の受ける印象がよいことに気づかせる。</p>
	<p>(6) しずかちゃん風のアイメッセージで、熊子がウサ子に、チェリ子の悪口を言うのはよくない、ということ提案した場合の文章を書いてみましょう。 (7) アイメッセージで書いた文章を、同じ班の人たちに紹介しましょう。そして、班の中で最もしずかちゃん風な文章を話し合いで選び、発表しましょう。</p>		
	<p>○アイメッセージで文章を書いてみることで、改めて対面によるコミュニケーションの大切さを理解する。</p>	<p>○ワークシートに、アイメッセージで、「熊子がウサ子に、チェリ子の悪口を言うのはよくないので、やめるように提案する」文章を記入する。 ○ワークシートに書いた文章を、同じ班の班員に紹介する。その後、班の中で最もしずかちゃん風なアイメッセージの文章を話し合いで選び、順番に発表する。</p>	<p>○生徒が発表するときには、実物投影機などのICT機器を使って生徒が書いた文章を映写して紹介できるようにするなどの工夫をする。</p>
まとめ	<p>○インターネットを用いたコミュニケーションの限界と、対面によるコミュニケーションの重要性を再確認する。 ○ワークシートを回収する。</p>	<p>○ワークシートを確認しながら、インターネットを用いたコミュニケーションの限界と、対面によるコミュニケーションの重要性を再度、理解する。</p>	<p>○授業全体の流れを今一度ふり返り、インターネットを用いたコミュニケーションの限界と、対面によるコミュニケーションの重要性を再確認する。 ○ワークシートを回収する。</p> <p>○スマートフォンのアプリ「LINE」の使用によって生じた「ネットいじめ」の事例を通して、インターネットを用いたコミュニケーションの限界や対面によるコミュニケーションの重要性を知り、望ましい人間関係作りに生かそうとしている。 →ワークシート</p>